

年間第 29 主日
マタイ 22・15-21

2014.10.19 9:30 ミサ
イエズス会 柴田 潔神父

導入

このミサは、「病者のために祈るミサ」です。体と心の病に苦しんでおられる方々のためにお捧げします。ミサの中で病者の塗油が授けられます。ヤコブ 5・14-15 にこうあります。「あなた方の中で病気の方は、教会の長老を招いて主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起きあがらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦して下さいます」。病者の塗油は、苦痛を和らげ、救いが与えられるように授けられますが、まずわたしたちの信仰を強くしなければなりません。病人は、キリストの死と復活への自分の信仰と、わたしたち高円寺教会の信仰によって救われます。わたしたちの信仰が強まって、病者が救われることを願ってミサを始めましょう。

説教

説教は、福音から考えます。サラリーマン時代、わたしは独身でしたし、収入もある方だったので税金を結構払っていました。所得税、住民税、雇用保険、月に10万円を超えることもあり、「独身は損だなあ」と思いながらも、「これだけ国のために貢献しているんだ」という自負心もありました。それに引き換え、イエズス会に入ってから税金を殆ど払っていません。国民として後ろめたさも感じましたし、他の神学生が税金を払ってことがないのに「税金の使われ方がおかしい」と熱く語っているのに違和感を覚えたりもしました。

さて、福音の中で、イエスは、ファリサイ派やヘロデ派が、自分を訴える口実を探すために仕掛けてきた議論に辟易としている様子がうかがえます。また、民衆が払いたくない税金を払っていることに痛みを感じていたことも知っていました。ユダヤ人の心の中には「神が王」という宗教的信念がありました。けれども、今のイスラエルは弱くて、ローマ帝国に支配されている。悔しさを覚えながら税金を払い続けなければならない。民衆の矛盾に満ちた思いをイエスは肌で感じていました。だからこそ、こんな議論をしかけることの無駄を感じて、もっと別のことにエネルギーを注げばいいのに、と考えたでしょう。

わたしたちは、この世への貢献として税金を払う必要があります。国の安定、経済の安定、高齢者をサポートするために働いて得たお金の一部を国に収める必要があります。けれども、わたしたちには、別の必要があります。それは義

務というより、使命でしょう。わたしたちは、神の似姿としてのはんこ・刻印を洗礼によって押されています。この印は、可能性にとどまるのではなくて、具体的に表して行くことが大切です。

高円寺教会は、来週「教会まつり（バザー）」を控えています。このバザーの目的の一つは東日本の被災地への支援です。ここで、山口での支援について分かち合いたいと思います。山口にいた時は、2011年の10月から福島県の二本松にあるカトリック幼稚園を支援してきました。その時に園長先生から伺ったお話です。

被災直後は、学校を退職なさった方たちの家が、壊れたりして住めなくなっていた園児たちのお世話のために2週間、幼稚園に泊まり込んで奉仕してくれました。原発から近い浪江の幼稚園の園児を20人以上受け入れました。でも、原発から50～60キロ離れた二本松からも引っ越す園児も後を絶ちませんでした。園児はがたっと減りました。そのため、本採用する予定だった先生お一人に辞めていただくなくてはならなくなりました。毎日何回も線量計で放射線の量を確認しました。園児を外で遊ばせるにも、時間を制限しなければならない。このような苦しい状況の中で、先生たちは園児のために毎日ご苦労されている。でも、これだけ頑張ってくれている先生方へのお給料も払えないかもしれない。そんな、胃が痛くなるプレッシャーを感じながら、毎日園児さんを笑顔で迎えました。もう幼稚園を閉じないといけないかもしれない。そんなことを考えていた時に、山口からありがたい支援がありました。困った時には神様・マリア様が助けて下さる、そう子どもたちに教えて来たことが実際に起きて涙があふれてきました。震災と原発事故で辛いことも多いですが、神様は確かに助けて下さることがわかりました。大きな恵みをいただきました。

バザーで示された小さな善意が、神様の姿を表してしてくれました。わたしたちに刻まれた神の像が浮かび上がりました。神様にお返しすることができました。税金は自動的に引き落とされますが、善意はわたしたちの自由意志にかかっています。神様は、わたしたちがどれだけ積極的に返していこうとしているかを、とても楽しみに待っています。出し惜しみしないで、神様に返していく。その思いを「教会まつり」に向けて新たにしましょう。